

IV 系統的な指導（小学校の授業モデル）

小学校でも、根拠や理由をもって説明できるようになることが必要だよ。自分の考えの根拠や理由になる事実を、資料から読み取ったり、複数の資料を比較・関連付けたりして、工夫や努力、苦心が明らかになるような授業にしよう。



- 1 単元名 天皇中心の国づくり（全5時間）
- 2 目標 聖武天皇が即位してからの取組について調べたことを通して仏教の教えを広めることで国をおさめようとしたことをとらえることができる。

授業充実の3ポイント を踏まえた学習過程	学習活動	時間(分) 形態	教師の具体的な働きかけ
【目標の明確化】 1 興味関心が生まれる導入 2 課題意識の焦点化 3 学習課題・めあての設定 視点1 4 解決の予想と見通し	1 聖武天皇の生涯について知る。 2 即位中は、飢饉や争いが起こっていることに着目させる。 3 学習課題を設定する。 聖武天皇は即位してから、どのように国を治めようとしたのだろうか。 4 課題解決の見通しをもつ。 ① 教科書の範囲を確認する。 ② 時系列で聖武天皇の取組をノートに書く。 ③ 取組についてグループで話し合い、キャッチコピー(俳句)を作る。 ④ 全体で学習のまとめをする。	8 一斉	○ 年表（聖武天皇の生涯を示す、項目を隠した年表）を提示し、天皇即位後の世の中の様子に着目させ、飢饉や争いが起こっていることについて話し合わせる。 ○ 「天皇に即位してからどんな思いでいるのだろうか。」と発問し、大変な世になり何とかしなければならぬという問題意識に焦点化する。 ○ 本時の追究課題は即位後の天皇としての取組であることを確認する。また、そのことを解決するための教科書の範囲を確認する。
【山場の工夫】 5 自力解決による最初の考えの構築 視点2 6 考えの交流(学び合い) 視点3	5 自分の考えをもつ。 (1) 聖武天皇の取組が分かる資料を探す。 ・ 遷都 ・ 国分寺 ・ 東大寺 ・ 大仏建立 等 (2) 調べた資料を基に、聖武天皇の考えや願いについてまとめる。 6 まとめたことをグループで話し合い、聖武天皇の取組をキャッチコピーにする。 <キャッチコピー(俳句)の例> 【A規準】 ・ 国分寺 全国に建て 不安鎮めよ ・ 都うつし どうにかしたい 不安な世 ・ 大混乱 助けて欲しい 仏様 【B規準】 ・ 仏教の 教えを広める 国分寺 ・ 都かえ 結局もどすよ 平城京 ・ 仏教の 力を借りて 国治め	7 個 3 個 15 グループ	○ 焦点化した問題意識を基に、「いつ、何をしたのか。」という視点でノートに記述させる。 ○ 机間指導をする際には、「いつ、何をしたのか。」という視点で調べたことを時系列で確認させる。 ○ 本時の学習のまとめを意識させながらキャッチコピーを作らせるために、「聖武天皇の取組をまとめて言う、何のために何をしたと言えるだろうか。」と発問し、社会の不安を鎮めるために、仏教の教えを広めることで国を治めようとしたことを捉えさせる。 ○ どの資料から読み取ったのかが分かるように発表させるために、根拠となる資料を明らかにして話し合わせる。 【対話的な学び】 ○ 発表させる際には、「～の資料から〇〇という言葉を使って俳句にしました。」と説明をさせる。 ○ 説明が不十分な場合は、「資料のどこから分かったのか。」を問いかける。
【発表のルール 聞き方のルール】 視点4 7 自力解決による最終的な考えの構築 【確かめ見届け】 8 学習のまとめ 9 習熟 10 振り返り	【A規準】：社会全体の様子や聖武天皇の取組が分かる内容 【B規準】：聖武天皇の取組が分かる内容 7 グループごとにキャッチコピーを発表する。 8 学習のまとめ 都をうつして政治を安定させたり、仏教の教えを広めて社会の不安をしずめたりして、この国を治めようとした。 9 習熟を図る。	10 一斉 7 一斉	○ 本時のめあてを振り返らせ、「仏教の教え」をキーワードにノートに説明させる。 ○ 世の中の様子や取組を振り返らせる。

【コアティーチャーネットワークプロジェクト社会科部員】
 枝迫大明(奄美小)、野元初美(伊津部小)、池田直也(古仁屋小)、上口義彦(龍瀬小)、岩崎雅彦(兼久小)
 園山公平(名瀬中)、江口敬弘(住用中)、中野達也(赤木名中)、星野清(油井中)、湯原亮一(田皆中)
 淀修司(奄美市教育委員会)、新屋公彦(大島教育事務所)

授業力向上リーフレット 社会科編

=H29コアティーチャーネットワークプロジェクトまとめ=

大島教育事務所

「かごしま学力向上プログラム」の一環として行われたコアティーチャーネットワークプロジェクトで「質の高い授業」のモデルづくりに取り組みました。
 大島地区で課題のある単元や指導法に焦点を当てていますので、ぜひ、参考にして日々の授業に生かしましょう。

I 授業の概要

- 1 単元名 第1学年「古代までの日本」(全7時間)
- 2 節・項 「古代国家の歩みと東アジア社会」「奈良時代の人々の暮らし」
【教科書P44, 45】
- 3 目標 奈良時代の人々の暮らしを、複数の資料を関連付けながら、自他の意見の交流を通してまとめ、説明することができる。

なぜ、この単元を選んだのかな？



「鹿児島学習定着度調査」の結果（県の平均正答率との差）から

観点	小5		中1		中2				
	H27	H28	H27	H28	H27	H28			
思考・判断・表現	0.2	0.9	-1.4	-0.4	-2.4	-1.4			
資料活用 の技能	-0.9	2.2	-3.2	-3.4	-1.9	-1.4			
知識・理解	0.8	2.8	-0.6	-2.7	-2.4	-4.9			
内容 領域	国土の様子	世界の地域構成	日本の地域構成	1.3	2.9	0.3	0.5	-2.0	-1.1
	農業	人々の生活と環境	日本の地域的特色	-0.9	0.7	0.0	-1.2	-2.2	-3.1
	水産業	世界の諸地域	日本の諸地域	1.0	3.3	0.0	-0.8	-1.9	-2.6
	工業	歴史のとらえ方	近世の日本	0.7	1.6	-3.6	-5.3	-2.7	-4.2
	運輸・貿易	古代までの日本		-2.4	2.3	-2.8	-3.7		

「H28鹿児島学習定着度調査」の資料活用問題から

中1 5-3

(3) 略年表Bの下欄(2)と奈良時代の農民の生活の様子を、資料2と資料3～5を使いながら下のようまとめた。まとめた文の□に、資料3～5からわかることをもとに、農民にはどのような負担があり、どのような生活であったかの説明を書き、まとめを完成させよ。また、その際、「負担」、「口分田」という語句を使うこと。

それぞれの資料からの確に事実を読み取り、設問の意図に合わせて、説明することができるか。

キーワードとなる語句を使う。

複数の資料を比較・関連付けて設問に対する説明を明らかにする。

それぞれの資料から事実を的確に読み取る。

観点では、資料活用において、県との差が大きいね。

特に、それぞれの資料からの確に事実を読み取り、比較・関連付け、キーワードとなる語句を使って説明する力を付ける必要があるね。



(資料2) 班田収授の法(一部要約)

○ 戸籍に登録された6歳以上の男女に口分田を与える。(死にしたら返す。)

○ 収穫の3割を「租」として国に納める。

(資料3) 奈良時代の農民の主な負担

種類	内容
租	稲(収穫の約3%)
課	地方の修築物(橋・堤、道、魚・貝、鉄など)
課	幕の右(労役の代わり)
労役	筆箱：土木工事などの労役(年間60日)
兵役	騎士：郡へ(1年) 防人：九州北部へ(3年)

(資料4) 山上僧良「新撰和歌集」
正万葉集

大津みに田をつつてついでに、海草のように散らした着物を着て、つぶれて曲がった家の中で、地面にじかにわら敷いている。かまどには煙も立たず、こしき(米を蒸す器)には湯気があがり、米を炊くこと忘れて、ほそぼそとした声をたてているのに、むらを持った風長が腰を取り立てようと戸口までやってきておめいしている。これほどまででどうしようもないものか、この世に生きていくことか。

(資料5) ある地域の戸籍の登録者
(北田大十(大仏開創))

年齢	在籍者数			逃亡者数		
	男	女	計	男	女	計
65歳以上	6	13	19	1	4	5
61~65歳	1	6	7	0	0	0
21~60歳	60	191	161	8	29	28
17~20歳	5	12	17	1	1	2
16歳以下	72	69	132	0	2	2

<まとめ>
 律令制のもとで、人々は戸籍に登録され、班田収授の法により、男女とも6歳以上になると口分田をあたえられた。しかし、農民は稲の収穫の3割を「租」として国に納めるだけでなく、

授業に何が足りないのかな？

「H28鹿児島学力定着度調査」の質問紙から

	小5	中1	中2
先生の説明を聞く	22.5%	32.3%	35.1%
自分の考えを文章にまとめる	8.6%	5.5%	5.2%
自分の考えや資料をもとに話し合う	8.8%	4.5%	3.0%

教師の説明を聞く授業が多いと感じている児童生徒が多いね。
自分の考えを表現したり、友達と根拠を基に話し合ったりする授業への改善が必要だね。
「対話的な学び」を実現させるように工夫することが大切だね。

そして、教師主導でなく、児童生徒の主体的な活動となるようにしなければならないね。
特に、社会科は、ペアやグループにおいて「調べて考えたこと」を、根拠や理由をもって表現できるように授業を工夫しなければならないね。



II 授業づくりの視点

どんな指導をしたら、ねらった力を身に付けられるかな？

授業づくりの視点

- 【視点1】 問題解決的な学習するためのめあてが設定できているか。
- 【視点2】 自分の考えを確実にもたせているか。
- 【視点3】 ペアやグループでの活動「対話的な学び」を取り入れ、考えを交流させる場を設定しているか。
- 【視点4】 「発表のルール」「聞き方のルール」を活用した全体発表の場「対話的な学び」を設定しているか。

III 授業モデル（オープンサポート教科フォーラムで模擬授業を実施）

それでは、授業づくりの視点を踏まえて、平成29年度コアティーチャーネットワークプロジェクトで作成した授業モデルを見てみましょう。

授業充実の3ポイントを踏まえた学習過程	学習活動	時間(分)形態	教師の具体的な働きかけ
【目標の明確化】 1 興味関心が生まれる導入 2 課題意識の焦点化 【視点1】 3 学習課題・めあての設定 4 解決の予想と見通し	1 人々は戸籍に登録され、班田収授法により、口分田が与えられたことを知る。	3 -斉	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「古代の戸籍」を提示し、戸籍の登録について説明する。 ○ 与えられた口分田の広さを実感させるために、25mプールいくつ分の広さなのかを説明する。 ○ 学習課題を焦点化するために、「ある地域の戸籍の登録者」を提示し、逃亡者がいることと口分田が与えられることとを関連付けさせ、問題意識を高める。
	2 逃亡者がいることを知る。	2 -斉	<ul style="list-style-type: none"> ○ 課題を解決したいという問題意識を高めるために、口分田を与えられながらも逃亡者がいることへの矛盾を感じさせておく。
	3 学習課題を設定する。 奈良時代の一般の人々の中には、なぜ、逃亡する者がいたのだろうか。	2 -斉	<ul style="list-style-type: none"> ○ 課題に対する自分の考えをもたせるために、予想を立てさせてから、自力解決を始めさせる。 (1) 資料を見ないで考えさせる。 (2) 資料を使って調べさせる。
	4 課題解決の見通しをもつ。	2 -斉	<ul style="list-style-type: none"> ○ ① 自分の考えをもつ。 ○ ② グループで話し合い、意見をまとめる。 ○ ③ グループの意見を発表する。 ○ ④ 全体で学習のまとめをする。

【山場の工夫】
5 自力解決による最初の考えの構築

視点2

6 考えの交流(学び合い)

視点3

7 自力解決による最終的な考えの構築

視点4

5 自分の考えをもつ。
(1) 自分なりの考えをもつ。
(2) 配布資料を基に考えをまとめる。

【配布資料】 ①~⑥は、資料番号
①古代の戸籍 ②班田収授法
③衣服関係 ④住居関係 ⑤食事関係
⑥その他(一般の人々の負担、防人の歌)

6 **グループで話し合い、意見をまとめる。**

発表ルール
① ○○という資料から□□ということが分かるので△△ではないかと思います。
② ○○という資料と◇◇という資料を比較して(関連付けて)□□ということが分かるので、△△ではないかと思います。

7 **グループの意見を発表する。**
(1) ホワイトボードに記入したまとめを発表する。
(2) 他グループの発表を聞き、考えを再構成させる。

発表のルール
聞き方のルール

聞き方ルール
① 同意
「そうだね。」「同じだ。」
② 補足
「他には～。」「それと～。」
③ 反論
「でも～。」

8 **本時のまとめをする。**
一般の人々に対する、重い税と厳しい労役の負担による貧しい生活に耐えられなかったから。

9 **本時の学習を振り返る。**

10 **次時の学習内容を確認する。**

10個
7個
8グループ

○ 課題解決のために必要な資料は1枚にまとめて配布する。
○ 根拠を基に個人の意見をグループ内で表現できるようにしたワークシートを活用する。

【対話的な学び】
○ ①は、1つの資料から読み取れたことを基にして説明させる。
○ ②は、2つ以上の資料から読み取れたことを基にして説明させる。

○ 全ての生徒に②の話型を求めるのではなく、①の話型も使わせ、根拠や理由をもって説明できる楽しさを味わわせるようにする。
○ 根拠や理由を明確にするために全体に発表する際にも、「発表のルール」を意識させて発表させる。
○ 配布資料①～⑥を拡大掲示し、発表の際に使わせる。

【対話的な学び】
○ 自分のグループで明らかになったことを基にして、他グループの発表を記述させる。
○ 自分のグループとの類似点や相違点を聞き取らせながら、同意、補足、反論の視点で記述させる。

